

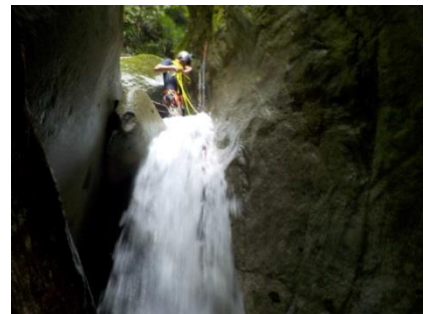
丹沢：小川谷（2回目）

- ◆日程 2018年8月29日（水）
- ◆メンバー L：前田、岡村
- ◆天候 曇り

8月5日の小川谷は大岩までで途中撤退となった。やはり最後まで行ってみたいと思い、平日、休みを取り付けて、再度、小川谷に行くことにした。しかし、ここ数日の雨で水量が多いためあって、小川谷は甘くなく、再度、撤退するという結果になった。

バスを降りて林道を進み、前回よりも手前にあるケルンから入渓を試みた。なんとか行けそうだったが、最後は懸垂下降が必要となった。まだ装備を付けていなかったし、そこで装着するには不安定だったので、登り返し、結局、前回と同じ場所から入渓した。いくつかの堰堤を下りて、ヤブ沢と小川谷との出合まで下り、小川谷に入る。ここまで二人とも意気揚々だ。

そして、前回、苦勞しつつも登れた序盤のチョック・ストーンに出る。ここはほとんどホールドがなく、残置スリングをつかんで、強引にごぼうで登るのだが、水が多い。そのスリングが水線の真ん中であつた。私がスリングを下から右に引っ張って、スリングが水線にかからないようにした状態で前田さんが登った。次に私が登るが、下で引っ張る人がいない状態だと、必ず途中で振られてしまい、登っている最中に水線に突入してしまう。何度も何度も挑戦したが、毎回、激しい水の流れに阻まれる。そのたびに体のあちこちをぶつけた。水にぬれて寒い。そして、とうとう、あきらめた。せつかく登った前田さんに下りてきてもらった。懸垂下降をする前田さんも、途中、水線にぶつかって、どうにか踏ん張っていて、大変そうだった。「前田さん、すみません」と謝ったら、「おれも下で引っ張ってもらえなかったら、登れたかわかんないよ」と言ってくれた。こういうところ、さすがである。



前回の最高到達地点の大岩まで中ノ沢経路を行き、そこから遡行することとした。いくつかの堰堤を登り返して入渓点まで戻り、中ノ沢経路を転進し、途中、714mピークへの尾根線を辿り、スムーズに大岩に舞い戻った。

そこから、ようやく沢の遡行が始まる。いくつかの小滝をスイスイと越える。「ああ、これがそうか」と思える石棚のゴルジュが始まった。水量がすごい。その水量による大音響がゴルジュの中を響いていた。



ゴルジュは4段になっている。釜は深く、青く見える。ガイドブックには「背は立つ」と書いてある。水深は首までであるということだろうか。最初の釜は右から腰くらいまで入って迫り、途中から岩をへつって登って、越えた。高度感はあるが、落ちてても水深があつてケガはしないのではないかと、思えた。岩は妙に滑らかに丸みを帯びていて、赤い苔が生えていて滑った。

次の釜はやはり腰まで入って、釜の中から登り始めた。左側の湿って緑の苔の生えた釜の端っこを越えていき、4段目の滝の手前で、釜を見下ろす場所に出た。クライムダウンで下ろうかと思ったが、意外と滑る感じがして気持ちが悪かったので、確保支点を見つけ、懸垂下降で4段目の滝の釜に下りた。

真ん中にすごい水量の滝があり、あとは切り立っている。一枚岩のようにも見え、ホールド

がない。これはいったいどこを登るんだ？ ガイドブックを見ると「岩を巻くようにへつるの
でトップは残置ハーケンを利用して突破する」とある、巻くのか？ しかし、どこから巻ける
というのか。右か左か。岩をよくよく見ると、右の岩に残置ハーケンを2つ見つける。そうか、
水の中であのハーケンにかかったスリングをつかんで強引に上がるのか、とわかる。

かなり強引な登りが必要だ。1つ目のハーケンを使って上がったとしたら、その先は戻るわけ
にはいかない感じだ。とりあえず、1つ目のハーケンの下に行ってみる。腰まで水が浸かっ
た状態で、背を伸ばしてようやくハーケンから下がるスリングに手が届いた。ここから足場と
なるホールドもない。強引に腕力で上がるのだろうか。「どうする？」ふたりで相談した。特に
1本目のハーケんで上がったとして、そのあとが行けるか確信が持てなかった。

迷った末に安全策をとることとした。ゴルジュを懸垂下
降したりしながら、下に脱出した。泥の斜面を登り、中ノ
沢経路に出て、少し先に行って小川谷に下りようというこ
ととなった。大回りだが、壮大な巻き道をとったつもりだ。

しかしながら、中ノ沢経路は再び小川谷に近づくことは
なく、しばらく進んだが、大デッチ沢の源頭に出たところ
で、「これ以上行ってもしかたない」ということになり、撤
退を決めた。



思うのに、水量が多かったということもあるが、小川谷は、われわれには分不相応な相手だ
った。特に、水が多いときに沢はどうやって進めばいいのかについて、経験と知識が不足して
いたと思う。また、行き詰まる箇所でも要求されていた技術が、腕力を使ってとにかく体を上に
持っていくというもので、これにはボルダリングとかそういうものも含め、いままでとは違う
トレーニングも必要だと思った。

(記：岡村)

CT：玄倉バス停 8：00 - 入渓点 9：25/9：53 - 出合 10：00 - チョックストーン 10：
10/11：10 - 入渓点 11：30 - 大岩 12：10-石棚のゴルジュ 12：20/13：10-中
ノ沢経路 13：25-大デッチ沢 14：00-玄倉バス停 15：50

